



大野曲輪

空堀や土塁が荒削りなため、臨時的な曲輪の可能性も考えられます。

享禄年間（一五二八～一五三一）の火災により建物が焼け、その後再建されず本丸（二の丸）に主郭が移ったと言われています。

古本丸（本丸）

北方には大小2本の堀切り、東方の斜面には階段状の削平面が続いています。

中城・北城

桜門

主郭の搦手門です。

十二曲口

七曲口と併せて整備された登城口（搦手口）です。

本丸（二の丸）

明応年間（一四九二～一五〇二）、那須資実が行った城域拡張の際に築かれたと言われ、古本丸が使用されなくなると実質的な主郭となりました。

常盤曲輪・常盤門

城の正面を守る曲輪として重要なため、土塀や堅固な櫓門が築かれていたようです。現在も塀の土台となった石列が残っています。

西城・若狭曲輪

城の西側は、緩やかな峰続きで敵の侵入を受けやすいため、土塁・横堀などを巧みに用いて堅固な防御を施しています。

正門

周囲を石垣、土塀等で囲み厳重な防御を施しています。一部に石列等も見られることから、正門に相応しい格式を備えていたようです。

吹貫門

敵に対し横矢が掛かるよう、門の側面に石垣が築かれています。

案内板

太鼓丸（太鼓楼）

烽火台とも言われています。

七曲口

寛永十七年（一六四〇）、新たな登城口（天手口）として整備されました。

常盤橋（車橋）

堀切により通路を遮断しています。

釜ヶ入口

七曲口が整備される以前の大手口だと言われています。

下野国烏山

堀美作守居城

この「下野国烏山城絵図」は、正保城絵図に収められているものの一つで、全体の大きさは東西二m一九cm、南北二m四四cmです。北東隅には「下野国烏山 堀美作守居城」と墨書されています。（左図）この「堀美作守」は寛永十四年（一六三七）から、寛文十二年（一七二二）に信州飯田（現：長野県飯田市）に移るまで烏山を居城としていた堀親昌と考えられています。位置・形が詳細に載されています。各藩は幕府の命を受けてから数年で絵図を提出したとされています。主の居館となりますが、こ